

はじめに

「英語をマスターすることはできない。だから、自分にとって必要なところを押さえて、後はあきらめよう」。これが、この本のメインテーマです。

これは一見投げやりに感じるかもしれませんが、しかし、本業で忙しい方が自分の専門以外のことを学ぶには、このようにいい意味での「見切り」を行うことは欠かえません。なぜなら、私達の時間とお金は有限だからです。

ですから、大人になってから外国語を学ぶ際は、仕事で使うにしてもプライベートで使うにしても、自分が必要としているレベルをきちんと満たし、かつ必要があればさらに高いレベルにも発展させることのできる、折り目正しい低レベルな英語を見につける必要があります。

折り目正しい低レベルな英語という一見奇妙に聞こえるかもしれません。

しかし、英語・フランス語・イタリア語、そして、スペイン語と複数の語学を学んだ体験から言えば、同じ低レベルな英語でも発展性や広がりには乏しい無勝手流のものと、低レベルながらも将来的に発展していく可能性を持った折り目正しいものの二つに分けられます。

そして、大人であれば、身につけるべきは後者の英語になります。

ですが、残念なことに、書店の棚を見回しても、英語勉強本のほとんどはプロ向けの勉強法を薄めたものか、そうでなければその場しのぎの方法論を身につけるために書かれたもので、社会人が本当に必要な英語力を身につけるための本はなかなか見当たりません。

そのような状況の中、折り目正しいレベルの低い英語を身に付けるための方法を説明しようとして書かれたのがこの「捨てる英語、拾う英語」です。

また、その具体的な方法論に関しては、私自身の複数の体験とともに、上智大学の大学院で聴講したSLA（第二言語習得）の内容を参考にしました。日本で英語を勉強してい

ると、知らず知らずのうちに日本の英語教育界に根づいている考えに影響を受けて勉強していることが多いです。

しかし、科学としての第二外国語習得を意識すると、それとはまた違った世界が見えてきて、外国語を学ぶ上で非常に有効です。私自身、SLAを学ばなかったら、イタリア語をマスターすることはできなかったでしょう。

この本を通じて、あなたが必要としている英語力を身につけることのお手伝いができればと思います。